

## 全国学力テストで学校教育をゆがませないように

(丹葉小中学校長会とのへ向けて 懇談尾北教労からの要請と提言より 2019. 2)

### (3) 全国学力テスト

#### <現 状>

全国学力・学習状況調査（以下「全国学力テスト」）は、「学力や学習状況を把握・分析する」（実施要領）という目的のために実施されています。しかし、結果公表が広がる中で、順位を上げるために過去問題や練習問題を使つてのテスト対策が広がっていて、「本来実施すべき学習が十分に実施できない」（「全国学力・学習状況調査に係る適切な取組の推進について」文科省通知 2016・4・28）という深刻な事例が指摘されています。

また、2018年8月、大阪市の吉村市長は、政令指定都市で最下位になったことを受け、全国学力テストの結果を教員のボーナスや学校予算に反映する方針を表明しました。このように、「序列化と過度な競争が生じないようにする」（実施要領）に反する事態が際限もなく広がっています。

こういった事態を改善することなく、2018年12月、文科省は、2019年度の実施要領を公表しました。そして、中学校で英語調査（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと）を行うとしました。2018年5月に英語予備調査を実施した内田洋行の報告書からは、次のような問題点が続出したことが明らかとなっています。

ア PCや校内放送などの機器の不具合が実施校の1割以上の学校で発生した。

イ 準備や事後処理で多大な時間を要する。とりわけ、「話すこと」調査については、学級数が多い学校は1日で終了できない。

ウ 生徒間の座席の距離が近いため、お互いの声が聞こえてしまう。

これらの課題が未解決のまま実施されると、新年度当初の学校現場で大変な混乱が起きることが懸念されます。

一方、子どものいじめ・自死を防止するという観点から、全国学力テストの見直しを求める動きが広がっています。

福井県の池田中の2年生徒が自死したことについて、福井県議会は、「『学力日本一』を維持することが本県全域において教育現場に無言のプレッシャーを与え、教員、生徒双方のストレスの要因になっていると考える。」という意見書を全会一致で可決しました。(2017・12・19)

さらに、青森市の中学2年生の葛西りまさんが自ら命を絶った事件について、青森市いじめ防止対策審議会は、次のような提言を出しています。「国は、全国一斉の学力・学習状況調査が学校現場の競争的環境の一因となっていることを踏まえ、また競争的学校環境が児童生徒にストレスを与えていることを踏まえ、その実施を含めた学力・学習状況調査のあり方について再検討するとともに、子どものいじめ、自殺、精神疾患等を引き起こす過度な競争をなくすための教育システムの構築に向けての抜本的改革に取り組まれない。」(2018・8・2)

愛知県においては、市町村・学校別の成績は公表されていません。また、県教委は、「テスト対策は好ましくない」「学力・学習状況充実プランや授業アドバイスシートは、授業改善に役立てるためのものであり、事前対策を奨励するものではない」(2018・11・6 愛教労と県教委との交渉)と回答しているように、事前対策を推奨してはいません。ただし、小学校国語の成績が良くなかったことを受けて、ここ数年「充実プ

ラン」「アドバイスシート」「ガイドライン」を各学校に下ろしています。

一方、尾北では、数年前に、「やったことがない問題が出るので、事前に練習して慣れさせることが必要ではないか」「これからの教育においては、こういう問題を解く力をつけていかなければならないのではないか」といった発言が管理職からなされたところがありました。そういったことが結果的に事前対策につながる懸念があります。各学校の教育をゆがめてしまうことのないよう、冷静な対応が求められています。

昨年度の校長会との懇談では、校長会から、「調査の目的は、教育施策の改善を図るとともに、学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるためとされている。測れるのは学力の一部である。他と競争するためのものではない。テスト対策はよくない。愛知県は、市町村別や学校別の結果を公表していない。引き続きこの方針が継続されるようにしたい」といった見解が示されました。

#### <提 言>

全国学力テストは、あくまでも「学力の特定の一部」を測定するものであり、市町村・学校別の成績公表や過去問題練習などのテスト対策で、学びがゆがめられたり、学校現場が振り回されたりしないようにすることが重要だと考えますがいかがでしょうか。